

## 彙報

## 新著紹介

## 社會學會例會

九月三十日午後六時より新會員歡迎會を兼ね本學年第一列會を開催す

利益分配法の根本原理に就て

山崎榮次郎

右講演終りて歡迎會にうつる。十時散會

當夜の出席者は米田教授を始め本年卒業されし白井學士村田太平氏及學生等十數名なりき。

## 印哲宗教學會

十月十九日(火)年後六時より文學部第六教室にて例會を開き次の講演を行へり。

佛教史上より見たる日鮮關係

手島 文學士

鹿野苑の遺跡

松本 教授

## 坂口教授、「概觀世界思潮」

數年の昔、「世界に於ける希臘文明の潮流」は、私に鮮かな印象を残した。かの書の著者が導いてくれた舟路に於て經驗した、潮の音、波の色、藻の香を私は今でも懐しいものとして感ずることが出来る。この夏私は同じ著者の「概觀世界思潮」を讀む機會をもつた。そして私は端無も「われは夏日の永きを愛す」と云ふ古人の言を想起したのである。

この書が私達に與へようとするのは、「正確なる知識に基きたる世界史の教養」である。それでは世界史とは一體何を意味するのであるか。それは最、包括的な歴史の謂であるか。政治史、經濟史、文學史、美術史などが記載し、叙述する事實を、唯漏なく網羅するのが世界史の任務であらうか。或はそれは最、概括的な歴史の謂であるか。あらゆる個人、一切の社會、國家、民族などの歴史に共通なるものを明らかにするのが世界史の課題であらうか。アナトール・フランスの波斯王の寓話は、「恰もこれらの間に巧に答へてくれるかのやうに見える。世界史の目的が若し前者にあるとすれ